

2018 年春 留学報告書

2018 年 3 月 30 日

London School of Economics/CEP

武田 航平

2017/2018 シーズンも, Micheltmas term, Lent term を終えてイースター休暇に入ろうとしているロンドンです。今年の冬はロンドンも寒く、3 月になっても雪が降り、なかなか春がやってきませんでした。ようやく日も長くなり春らしくなってきました。

1. LSE3 年目

LSE の PhD 三年目は、専門科目を1つとり、また専門のセミナー(Work in Progress Seminar)で発表をしながら研究テーマを探していくことがメインになります。専門科目としては、産業組織論(Industrial Organization, IO と呼ばれます)を選択しました。これは、自分の専門分野(国際経済、都市経済)に近い分野であることに加えて、主にモデルの推定法や数値計算など色々な手法を学べる点が多いからです。内容はなかなかハードで、4 人の教授陣から 5 回の Take Home Exam と 3 回のレフェリーレポートがあり、それらの総合評価が期末に行われます。今、最後の Take Home Exam とレフェリーレポートに取り組んでいます。

研究の方は、博士論文のネタ探しと、現在進行中の研究をなんとか Working Paper にまで持っていくことが目下の課題です。共同研究も含めて、ネタがすこし溜まってきたのでどれも中途半端にならないよううまく進めていこうと考えています。次のレポートの際にはもう少し具体的な内容を載せられるように進めていきます。

2. ティーチング

多くの PhD の学生は、TA として学部・修士の授業の演習を受け持ちます。僕は今年、学部 2 年生向けのミクロ経済学を担当しました。2 クラス合わせて 30 人弱の学部生に対して、週二時間、宿題の解説を中心にその年の講義の内容を復習、また週一時間のオフィスアワーで学生の質問に対応するというのが業務内容です。他の PhD の学生からも聞いていましたが、これだけの授業でも、授業準備や宿題の採点に意外と時間をとられます。もちろん、ティーチングの経験という Gain(および income gain)はありますが、コストと比べると net の gain はどうなのでしょう。また、LSE のカリキュラムを見ていると、自分が学部生だったときよりも、内容が結構スパルタだなと思います。学部が 3 年間しかないのに、その分内容を詰め込んでいるのでしょうが LSE の学部生の満足度が低いのはこのあたりにも要因があるかもしれません。

さて、ロンドンで迎えた三回目の冬も終わり、ようやく時間の 100 パーセントが研究に割かれる段階にきました。ポテンシャルの高い研究テーマを見つけ、その成果をまとめられるように益々精進していきたいと思えます。